

第六編 三國全權懇談會議事録

第一、第一回全權懇談會

時 日

一九二七年七月六日水曜日

場 所

「ホテル、ボー、リヴァー・ジュ」石井全權應接室

出席者

米 國

ギブソン氏

ジョーンズ提督

ダレス氏

英 國

ブリッジマン氏

セシル子爵

フィールド中將

キャムベル氏

日 本

齋藤子爵

石井子爵

白鳥氏

石井子爵ハ専門委員會ニ於テ日本委員ヨリ總噸數制限ニ關スル日本ノ見解ヲ開示セサリシヲ以テ齋藤子爵カ此機會ニ於テ非公式ニ日本側ノ意見ヲ開陳セムコトヲ希望スル旨並日本側ハ本件ヲ後ノ機會ニ於テ一層正式ニ幹部會ニ提出スヘキ旨ヲ

説明ス

次テ齋藤子爵ハ左ノ聲明書ヲ朗讀ス

『日本側ハ第一回總會ノ聲明ニ於テ會議カ噸數割當ヲ決スルニ當リテハ現有勢力ヲ基礎トスヘキコトヲ力説セリ

日本側ノ計算ニ依レハ英帝國ノ水上補助艦勢力ハ四十七萬二千噸ナリ

米國側ノ水上補助艦ニ關シ提議セル割當噸數ハ英米各四十五萬乃至五十五萬噸ニシテ尙米國側ハ右ヨリ低キ數字ノ制限ハ喜ンテ考慮スヘキヲ明ニセリ

日本側ハ軍備ノ制限カ吾人ノ主要目的タル以上米國ノ提議セル最小數字ヲ原則トシテ採用シ之ヲ以テ討議ノ基礎タラシムルコトハ會議ノ事業ヲ速ニ完了スルニ資スル處大ナルヘシト思考ス

若シ英米各四十五萬噸ノ數字ヲ結局討議ノ基礎トシテ採用スルトキハ日本側ハ日本側ニ割當ツヘキ水上補助艦噸數トシテ三十萬噸強ヲ提議スヘシ但日本側ハ右ト同時ニ他國側カ同意スルニ於テハ一層低キ制限ノ數字ヲ承諾スル用意アリ

尙日本側ハ潛水艦ニ關シ日本ノ爲約七萬噸ノ數字ヲ提議ス』

「ブリジマン」氏ハ四十七萬二千噸ナル數字ハ如何ニシテ得タルヤヲ質問ス

石井子爵ハ日本側ハ巡洋艦及驅逐艦ニ於ケル英國ノ現有勢力ヲ日本側ノ計算ニ依リ算出シ四十七萬二千噸ノ數字ヲ得タルナリ日本側ハ歸國後實質ノ軍備縮少ヲ協定シタリト言ヒ得ンコトヲ熱望スルカ故ニ巡洋艦及驅逐艦ニ對スル米國提案ノ最低總噸數ヲ採リ之ヲ加算シタル結果合計四十五萬噸ノ數字ヲ得タリ是レ日本側ニ於テ討議ノ基礎タルヘシト思惟スル所ナルカ之ヨリ低キ數字ニ達スルコトヲ得ルニ於テハ勿論之ヲ歡迎スルモノナリト説明ス

「ギブソン」氏ハ日本側ノ提案ハ慎重審議スヘキモノナリ米國原案ノ數字ニ降り來ルモノハ其ノ如何ナル提案タルヲ不問同氏ニ深キ感動ヲ與フルモノナルコト論ヲ俟スト陳述ス

「ブリジマン」氏ハ日本提案カ英國ニ許容シタル割當ハ英國側ニ於テ考慮スルコト不可能ノモノナリ米國側ハ過般四十萬

噸ヲ提議セリト陳ヘ英國ハ此ノ數字ニ降り來ルコトヲ得サル處右ハ米國カ建造センコトヲ希望スト言明セル多數ノ大巡洋艦ヲ相當削減スル場合ニ於テモ同様ナリ尤モ大型艦船ノ數ヲ根本的ニ削減スルニ於テハ英國側カ考慮シ得ル情勢ヲ馴致スルノ結果ヲ來スコトアルヘシ

吾人ノ第一ニ爲スヘキハ頗ル多數ノ一萬噸巡洋艦及八吋砲ヲ搭載スル他ノ艦船ヲ無制限ニ建造セントスル米國提案ヲ考慮スルノ一事タリ米國提案ハ概括的ニ見レハ防禦的ト言ハンヨリハ寧ロ攻勢的性質ヲ帶フルコト成リタリト指摘ス

「ギブソン」氏ハ右ノ内幾何カ一九三六年前ニ實際勢力トナルヘキヤト問ヒ若シ吾人カ一九三六年迄ニ完成セサル建造計畫ヲ討議スルモノトセハ三組ノ要求ノ間ノ不均一ハ左迄大ナルモノニ非サルヘシト述フ

「フイールド」中將ハ英國側ハ現實ノ建造計畫ヲ基礎トシテノ草案ヲ審查セリ其ノ結果ハ英國カ殆ント一隻モ建造セサルニ反シ米國ハ略三十五萬噸ヲ建造スルコトナルヘシ英國カ艦齡ニ達セサルニ先タチ艦船ヲ廢棄シ且全然新建造ヲ行ハサレハ格別然ラサレハ條約ノ有効期間内ニ於テハ平衡ヲ保ツコト全然不可能ナリ四十萬噸ノ數字ニ降下セムトセハ英國ハ再ヒ十年間ノ休息ヲセサルヲ得サル處右ハ技術上及工業上厭フヘキ所ナリト述フ

「ジョーンズ」少將ハ條約ノ有効期間以上ニ互ル數字ヲ討究スルノ要ナキニ依リ先ツ英國ノ建造計畫ヲ調査シ一九三六年迄ニ幾何トナルカヲ知ラント欲ス其ノ後ノ情勢ニ付テハ更ニ會議ヲ開クモ可ナラント述ヘ概シテ英國側ノ提出スル建造計畫案ノ下ニ於ケル其ノ他ノ企圖ヲ欣ンテ審查スヘキ旨ヲ表明ス

「ギブソン」氏ハ協定ニ達スル凡ユル方法ヲ講スルコト最モ望マシキ旨ヲ述フ

「ギブソン」氏及「ジョーンズ」提督ハ共ニ計算ノ基礎ニ關シ何等カ齟齬スル所アリ各全權ニ於テ同一事項ヲ談シ居ラサルモノト考フル旨ヲ述フ

次テ三組ノ要求ヲ一層接近セシムル爲メ建造計畫ヲ如何ニ調整スヘキヤニ關シ一般の討議ヲナス

「ジョーンズ」提督ハ同一ナラサル基礎ノ下ニ討議セラレ三國全權ノ言フ處吻合セストノ意見ヲ再說ス

「フィールド」提督ハ如何ナル方面ヨリ觀ルモ問題ハ米國ノ建造スル大巡洋艦ノ數カ根本的ニ削減セラレサル限り英國ハ四十萬噸ト言フカ如キ數字ニ降り來ルコト能ハストノ一點ニ歸着スト答フ

石井子爵ハ日本全權ニ於テハ日本ノ現存建造計畫ヲ増加セシムルカ如キモノハ受諾スルヲ得スト述フ

「セシル」卿ハ「ジョーンズ」提督ハ誠ニ結構ナル提案ヲナシタルカ日本側ハ之ヲ支持セラルヤト問フ

石井子爵ハ率直ニ言ヘハ日本側ハ噸數ヲ日本提案ニ近接スル點迄低下セシコトヲ要求セリ若シ米國カ其ノ大巡洋艦ヲ十隻ニ減シ且將來之レ以上建造セストノ合意成ラハ日本側ニ於テ同意スルコトヲ得ル點ヲ見出シ得ヘキカ如シト陳述ス

「ブリジマン」氏ハ其ノ提出セント欲スル他ノ一案アル處右ハ解決ノ可能アルカ如シ右案ハ「日米共ニ艦船ハ二十年以後ハ用ヲナサスト思考シ英國ハ二十四ケ年ヲ以テ最高ノ艦齡ナリト認ム故ニ二十年以内ノ艦船ノ總噸數協定ヲナシ且英國ハ右協定ニ包含セラレサル二十年ヨリ老齡ノ艦船ノ若干ヲ本國沿海用ノ爲メ保有スルノ提案ヲ日英側ニ於テ考慮スヘシ」ト云フニ在リ

本國ニ於テ右提案ヲ如何ニ見ルヤハ知ラサルモ日米側ニ於テ之ヲ熟考セラレンコトヲ希望スト述フ

「フィールド」提督ハ建造計畫案ニ關シ右案ハ米國カ英國ニ追付ク爲メ英國ヨリ速ナル割合ニテ建造スル様出來上リ居レリ若シ右ノ如キ協定成立セハ軍縮ニ有力ナル貢獻ヲナスヘシト説明ス

「セシル」卿ハ専門委員ハ之等ノ可能性ヲ悉ク調査スヘク日本専門委員ニ於テ敍上ノ趣旨ニ從ヒ且日本ノ見解ニモ合スル何等カノ考案ヲ發見セラレタキ旨ヲ說述ス

「ブリジマン」氏ハ幹部會ハ金曜日ニ會合スルコトナリ居ルヤ否ヤヲ問ヒ其ノ通決定ス

其ノ後尙一般討議ヲナシタル上左ノ通ノ了解ニ達シタリ

(イ) 日本側ハ金曜日ノ幹部會ニ於テ正式ニ其ノ提案ヲ提出スルコト

(ロ) 専門委員ハ三國全部ノ受諾スルカ如キ趣旨ニ依リ建造計畫制限ノ可能性ヲ攻究スヘキコト

第二、第二回全權懇談會

時 日 一九二七年七月九日(土曜日)午後四時

出席者

米 國	ギブソン 氏
	ダ レ ス 氏
英 國	ブリジマン 氏
	セシル 子 爵
日 本	齋 藤 子 爵
	石 井 子 爵

「セシル」子ハ巡洋艦ニ關スル行詰リ打開ノ一策トシテ一九三四年ニ於ケル既成巡洋艦噸數ヲ決定スル建造計畫(現在ヨリ一九三一年ニ至ル)ヲ攻究スヘシト提議ス

「ブリジマン」氏ハ一萬噸八吋艦ノ既定建造計畫拋棄(目下建造中ノモノハ勿論拋棄セサルモ工事ノ進捗大ナラス從ツテ之ヲ中止シ得ル一隻ハ之ヲ拋棄ス)ヲ考慮スルノ用意アル趣ヲ告ケ本提議ハ此種性能ノ艦船ヲ之レ以上建造セサルコトトスヘシトノ期待ノ下ニ爲サレタルモノナルモ米國カ英國ノ建造スル數迄一萬噸級ヲ建造スルノ完全ナル自由ヲ有スルコトヲ諒解セルモノナル旨ヲ説明ス

「ギブソン」氏ハ米國海軍専門委員ヲシテ欣ンテ提案ヲ攻究セシムヘキモ其ノ意見ニ依レハ軍備制限ヲナサントセハ建造計畫ハ總噸數ヲ以テスルヲ要スヘク且若シ右計畫カ四十萬噸以上ノ巡洋艦建造ノ餘地ヲ存スルニ於テハ之ハ軍備制限ト言フコトヲ得サルヘシト述フ

石井子爵ハ日本ハ一萬噸八隻建造ヲ計畫シツツアルモ英米ニ於テ日本側ニ比例シテ制限スルニ於テハ未起工ノ一隻ヲ削除

スルヲ得ヘキ趣ヲ告ク

「ギブソン」氏ハ此種艦船ノ隻數ニ關シ交渉ニ入ル事カ英國ヲシテ其ノ要求スル巡洋艦總噸數ヲ眞ノ制限ト思惟セラルル總噸數迄低下セシメ得ルモノナラハ右交渉ヲナスノ用意アリト陳述ス

第三、第三回全權懇談會

時 日 一九二七年七月十三日（水曜日）午前十時

出席者

米 國	ギブソン氏
	ダ レ ス 氏
英 國	ブリジマン氏
	セシル子爵
日 本	齋藤子爵
	石井子爵

「ブリジマン」氏ハ明日開催ノコトトナリ居ル總會ハ英國ノ立場ヲ聲明スル爲メ必要ナリト思考スト陳ヘ各國全權側ノ聲明ハ穩和ナル語調ナルヘキヲ信スル處自己ノ聲明ノ關スル限り其ノ穩和ナルヲ保證スルヲ得英國側ハ日米側ニ對シ開會前其ノ所論ノ輪廓ヲ通知スヘシト告ク

次ヲ混成委員會（註）ニ於テ英國側ノ爲シタル提案ニ付簡單ナル討議アリ日本全權ハ右提案ニ依ル日本ニ對スル總噸數ハ同全權ノ有スル訓令ヲ超過スト述ヘ米國全權ハ小型巡洋艦ヲ六千噸ニ制限スルコトニ同意スルコト困難ナリト述フ石井子爵ハ次テ左記覺書ヲ提出ス

「三國カ既成艦ヲ保有シ建造中ノモノヲモ完成シ且既定計畫全部ヲ遂行スルトキハ數年後ニ於ケル水上補助艦ノ噸數ハ左ノ如シ

英 六九一、〇〇〇噸

米 六四八、〇〇〇噸

日 四四二、〇〇〇噸

三國カ右噸數ヨリ各約三割ヲ削減スルコトニ協定セハ有效ナル制限ヲ實行セリト言フヲ得ヘシ

此場合三國割當噸數左ノ如シ

英 四八四、〇〇〇噸

米 四五四、〇〇〇噸

日 三一〇、〇〇〇噸

「ブリジマン」氏ハ斯ノ如キ激越ナル總噸數制限ヲ討議スルコト能ハサル旨ヲ述ヘタルモ専門委員ヲシテ本件全部ヲ再ヒ善ク攻究セシムヘシト告ク

「セシル」子爵ハ日本側カ紙上ニ於テ三十一萬噸ヨリ大ナル水上補助艦總噸數（此ノ大ナル限度迄建造スルトハ限ラス）ヲ受諾スルコト不可能ナルヘキヤヲ問フ石井子爵ハ日本ノ見解ヨリスレハ海軍軍人ノ態度ナルモノハ條約ニヨリ許容セラレタル限度迄建造スルニ在ルヲ以テ斯ノ如キ方法ハ危險ナリト答ヘ且巡洋艦ヲ一萬噸ニ制限セル華府條約ノ條項ヲ引用シ悉ク最大限ノ艦型ノ新巡洋艦ヲ作ルノ傾向トナリシ事實ヲ指摘ス

「セシル」子爵ハ三割減ノ代リニ二割減トスルコトヲ受諾シ得サルヘキヤト提議シ要スルニ右ハ海軍力ノ實質的縮小タルコト同様ニシテ右ニ依レハ討議シ得ヘキ總噸數ヲ得ヘシト述フ

石井子爵ハ専門的討議ニ入ルノ資格無キヲ感スト述ヘタルモ齋藤子爵ト協議ノ後日本全權ハ三十一萬五千噸ヲ超ユル數字

ヲ受諾スルコトヲ可能ト思考セサル旨ヲ陳述ス

「ギブソン」氏ハ本討議ニ依リ明ナルカ如ク第一且緊要ノ問題ハ日英全權側ノ間ニ巡洋艦總噸數制限ニ關スル妥協點ヲ見出スニ努メラルルニアリスル妥協點ヲ見出ササル限り他ノ點ヲ討議スルモ利益鮮ナカルヘシト述フ

(註) 混成委員會トハ各一名ノ各國海軍武官及文官ヲ以テ構成セル小委員會ヲ云フ

第四、第四回全權懇談會

時 日 一九二七年七月十八日(月曜日)午前十一時

出席者

米 國	ギブソン氏
	ダ レ ス 氏
英 國	ブリジマン氏
	セシル子爵
日 本	齋 藤 子 爵
	石 井 子 爵

石井子爵ハ十四日ノ總會後行ハレ且混成委員會ノ齋ラセル交渉ノ基礎ヲ更ニ促進スル所アリタル小林「フィールド」兩中將間ノ非公式會談ニ言及シ米國側ハ日英兩國側ノ數字ノ中間ニ位スル處日英間ニ存スル總噸數ノ數字ノ懸隔ヲ調和スル目的ノ爲メ右討議ヲ行ヒタルモノニシテ右ハ非公式ノ性質ヲ有スルモノナリト説明ス

兩中將ノ討議ハ三國全權カ更ニ本件ヲ考慮スルヲ得ヘシト思惟スル成果ヲ齋ラシタリ勿論何等協定ニ達シタリト言フニ非ルモ日本全權ハ右成果ノ内容ヲ詳細日本政府ニ電報シ又米國全權側ニテ右討議ヲ充分ニ通報シ居リタリト陳述シ次テ兩中

將間討議ヲ概説セル覺書ヲ配布ス右覺書ハ「ブリジマン」氏ニ於テモ審査ノ結果「フィールド」中將カ同氏ニ概説セル本會談ノ精確ナル聲明書ナリト思惟スル旨ヲ述フ
覺書左ノ如シ

(一) 水上補助艦總噸數

(イ) 小林中將ノ申出タル數字

英 國	四八四、〇〇〇噸
日 本	三二五、〇〇〇噸

(ロ) 「フィールド」中將ノ申出タル數字

英 國	五〇〇、〇〇〇噸
日 本	三二五、〇〇〇噸

(二) 總噸數ニ加フルニ二割五分ニ當ル老齡艦ノ保有

(三) 一萬噸巡洋艦隻數制限

英國及米國各	一二
日 本	八

(四) 左記艦船ノ保有

英 國	「ヨーク」及「ホーキンス」級四隻
米 國	「オマハ」級十隻
日 本	古鷹級四隻

(六) 巡洋艦及驅逐艦ノ最大百分率ヲ協定スルコト

(七) 潛水艦

(イ) 小林中將ハ日本ハ潛水艦約七萬噸ヲ要スト述フ

(ロ) 「フィールド」中將ハ三國共ニ六萬噸ヲ提言ス(註)

右覺書ノ説明トシテ石井子爵ハ日本ニ對スル水上補助艦三十二萬五千噸ナル數字ハ曩ニ日本全權側ヨリ提言セル潛水艦七萬噸ナル數字ヨリ一萬噸ヲ控除シ之ヲ日本全權側カ從來超過スルコトヲ欲セスト言ヒ居タル水上補助艦總噸數三十一萬五千噸ニ加算シテ出來上レルモノナルヲ陳ヘタリ尙石井子爵ハ潛水艦ハ噸當リ最モ高價ナル艦船ナルヲ以テ此ノ調整ハ日本大藏省ノ喜フ所ナルヘシト思惟スル旨ヲ告ク

第二點ニ關シ「ギブソン」氏ハ艦齡超過艦ヲ決定スルニ當リ如何ナル艦齡ヲ採用セントスルカヲ問フ

石井子爵ハ日本ハ米國提案タル巡洋艦二十年驅逐艦十六年ヲ考慮スルノ用意アリト述フ

「セシル」子爵ハ兩中將ノ討議ニ付同子爵ノ了解スル所ニ依レハ右覺書ハ艦齡ニ關スル日本提案即巡洋艦十六年驅逐艦十二年ノ基礎ニ於テ起草セラレタルモノナリト述フ

「ギブソン」氏ノ質問ニ答ヘ「プリジマン」氏及「セシル」子爵ハ第四點ノ軍艦ハ「フィールド」中將ノ提言セル總噸數五十萬噸ノ制限内ニ包含セラルルモノナルコト及此等ノ軍艦ヲ掲記シタル目的ハ右軍艦カ英國全權ニ於テ一萬噸級以下ノ最大單艦噸數トシテ決定セムコトヲ希望セル六千噸ヲ超過シ居レトモ尙之ヲ保有シ得ヘク而モ第三點ニ掲記セル一萬噸軍艦ノ隻數中ニ包含セシムヘカラルコトヲ明ニスルニ在リタリト力説セリ

覺書ノ討議ニ關聯シ該覺書ヲ準備セルハ覺書中ニ提示セラレタル制限事項カ一九三六年終了ノ條約ニ包含セラルヘキモノナリトノ前提ニ基クモノナルコト「プリジマン」氏ニ依リ明瞭ニ摘出セラレタリ

「セシル」子爵ハ第七點(ロ)潛水艦提議ニ關シ日英米三國カ同一總噸數ヲ保有スル事ニ對シ日本側ノ見解ヲ問フ

石井子爵ハ右提言ハ「フィールド」中將ノナシタル所ナルカ若シ米國カ多數ノ潛水艦ヲ欲スルニ於テハ日本ハ何等異議ヲ挾

マサルヘシト答フ

「プリジマン」氏ハ總噸數制限ニ關スル英國ノ見解ニ合スル様割切ノ方法ヲ考案シタル日本全權側ノ努力ニ對シ感謝ノ意ヲ表シ且本件ハ悉ク之ヲ本國政府ニ申報シタルニ付本國政府ノ承認ヲ條件トシテ本覺書ノ基礎ニ於テ交渉ヲ進ムルノ用意アル旨ヲ告ク

石井子爵ハ日本全權亦承認ヲ得ルタメ本件ヲ本國政府ニ申報シタリト述フ

第五點八吋砲巡洋艦ノ將來ノ建造ニ關シ「ギブソン」氏ハ日本ハ本提案ノ下ニ於テ右巡洋艦ヲ建造スル噸數ヲ有セサルニ反シ米國ハ本提議ニ依ル總噸數ヲ以テ著シキ建造噸數ヲ有スルニ至ルヘシ此點ニ於テ米國ノ情勢ハ日本ト差異アル旨並本件ニ關シテハ更ニ其ノ意見ヲ述フヘキ旨ヲ言明ス

最後ニ新聞公表文ヲ左ノ通準備セリ

「總會ニ於ケル討議ニ引續キ且同會議ニ於テ目下ノ難問ノ一ハ即チ日英兩國委員ノ見解ヲ調和セシムルニ在リトノ意見モ出テタルニ顧ミ兩國間ノ相違セル意見ヲ調節セシムル目的ヲ以テ三國間ニ水上補助艦ニ關シ懇談行ハレツツアリタル處大體順調ナル進捗ヲ見本件ニ關シ更ニ深ク研究ヲ進メ得ルノ運トナリタリ」

(註) 「フィールド」中將ハ上記覺書ハ病氣ノ爲之ヲ檢討スルコト能ハサリシ旨並第七節(ロ)ハ左ノ如カルヘキ旨ヲ述フ
「フィールド」中將ハ若シ日本カ六萬噸ニ縮小セハ英米ハ之ニ順シテ縮小スヘシト提言ス」

第五、第五回全權懇談會

時 日 一九二七年七月十九日(火曜日)午前十一時

出席者

米 國 ギブソン氏

ダレ ス 氏
英國 ブリジマン 氏

セシル 子爵
日本 齋藤 子爵
石井 子爵

各全權ハ更ニ小林「フィールド」兩中將ノ覺書ノ討議ヲ續行セリ「ギブソン」氏ハ水上補助艦全部ヲ五十萬噸ニ制限シ更ニ其ノ二割五分ニ當ル老齡艦ヲ保有セントスル提議ハ實際ニ於テハ總噸數ヲ六十二萬五千噸ニ増加セムトスル偽裝の方法ナルヘシト指摘シ且右六十二萬五千噸ナル數字ハ米國全權側ニ於テ不本意ヲ討議スルヲ諾シタル數字ノ範圍内ニ在ルモ所謂老齡艦ヲモ含ム總噸數ヲ明示スル方一層率直ナルヘシト感シタルカ若シ艦齡カ提案ノ如ク巡洋艦十六年驅逐艦十二年ト決定セハ老齡艦ハ各國海軍力ノ有效ナル部分タルヘク夫々二十年及十六年トセハ事態ハ異ルヘシト述フ

「ブリジマン」氏ハ討議ハ夫々十六年及十二年ノ基礎ニ於テ行ハレタルモ僅少ノ整調ヲ爲スコトヲ得ヘシト述フ

石井子爵ハ日本全權側ハ華府會議以前ニ建造セラレ且大戰ニ參加セル艦船ニ對シテハ十六年及十二年ノ數字ハ衡平ナルヘシト思考スルモ華府會議後ノ艦齡ニ對シテハ夫々二十年及十六年ノ艦齡ヲ希望スト陳述シ尙老齡艦ヲ別個ノ種別トスル考案ハ低キ總噸數ヲ主張スル日本ノ意見ト老齡艦ヲモ含ム噸數ヲ要求スル英國ノ希望トヲ調整スルコトヲ得ルヲ以テ日本側ニ便宜ナリトノ趣旨ヲ告グ

「ギブソン」氏ハ驅逐艦及老朽裝甲巡洋艦ヲ除ケハ米國ハ老齡艦ニ入ルヘキ艦船ナキモ若シ他ノ問題ニ付キ協定ニ達シ得ルニ於テハ老齡艦若干ノ保有ニ關スル「フオーミユラ」ヲ討議スルノ準備アリ但シ目下之レヲ確約スルコト能ハスト述フ石井子爵ハ英國カ「ホーキンス」級及「ヨーク」ヲ保有シ又日本カ古鷹級四隻ヲ保有スル代償トシテ米國ニ八吋砲巡洋艦若干ヲ割當ツルコトトシ從テ日英覺書第四點ヲ此趣旨ニヨリ修正スルコト公平ナルヘシト陳述ス

「ギブソン」氏ハ此提議ヲ感謝スル旨ヲ述べタル後將來討議ノ難關タル八吋砲問題ニ付キ米國ノ意見ノ概略ヲ開示スヘシト冒頭シ若シ此問題ヲ單ニ専門的の見地ノミヨリ討議スルニ於テハ解決ヲ期スルコト疑ハシ解決ニ達スル唯一ノ方法ハ當事國ノ關係ニ實際上如何ナル影響ヲ及ホスヤノ見地ヨリ討議ヲ進ムルニ在リ實際問題トシテハ本件ハ各國カ其ノ巡洋艦噸數ノ一部分ヲ如何ニ使用セントスルカニ懸ル處茲ニ専門的の見解ヲ離レ本問題ノ廣汎ナル政治的意義ヲ開陳セント欲スト述フ同氏ハ巡洋艦三十萬噸ノ基礎ニ於テ一萬噸級巡洋艦十二隻若クハ其以上ヲ建造スルモノト假定シ又「オマハ」級十隻ヲ保有スルモノトセハ米國ハ爾餘ノ巡洋艦建造用トシテ僅ニ約十萬噸ヲ有スルニ過キ又實際問題トシテ條約ノ有効期間内ニ果シテ米國カ一萬噸巡洋艦ノ一定數ヲ建造スルニ加ヘテ此噸數ヲ全部八吋砲巡洋艦ノ爲ニ使用スヘキヤ否ヤ問題ナリト考フル旨ヲ言明シ本提案カ日本ニ對シ特定ノ一萬噸級以外ノ艦船ノ新建造ヲ許ササルニ顧ミ爭點ハ明カニ英米ノ間ニ在ル處英國全權側カ（一）友好的協定達成セラレ條約成リタル場合（二）英國カ米國ニ不當ナル艦型ヲ強要セント企テタルカ爲交渉決裂セル場合米國カ八吋砲巡洋艦ノ建造ニ付キ如何ナル行動ニ出ツルヤヲ明カニ考慮セラレンコトヲ望ミ更ニ進ンテ若シ嚴格ナル噸數制限ノ下ニ兵裝ノ自由ヲ米國ニ拒ムカ如キ企テヲ爲スニ於テハ米國ヲ驅ツテ厖大ナル造艦計畫ヲ樹テシムル危險アリ米國ヨリ其ノ適當ト認ムル中級巡洋艦ノ兵裝ニ關スル行動ノ自由ヲ奪フカ如キ條約ハ米國ノ受諾スルコト能ハサル所ト思考スル旨ヲ言明シ英國ハ武裝シ得ル優勢ナル商船ヲ有シ將來長ク巡洋艦ノ優越ヲ確保シタリ米國全權側カ巡洋艦兵裝ニ關スル制限ヲ受諾スヘシト期待スルハ誤レリ米國ニ行動ノ自由ヲ拒マントスルカ如キハ米國民衆ノ憤怒ヲ誘致シ米國ヲシテ大ナル建造計畫ヲ立テシムルニ過キサルコトヲ力説ス

「ブリジマン」氏ハ八吋砲巡洋艦ヲ建造スルノ權利ヲ主張スル米國ノ態度ハ英國ノ噸數ヲ上騰セシムヘシ三國全權側ニ於テ討議スルコトヲ得ル噸數ニ達スル爲英國ハ既ニ多大ノ讓歩ヲ爲シタル處右ハ特定數ノ一萬噸級巡洋艦以外ニハ八吋砲巡洋艦ヲ除去スルコトヲ條件トセルモノナリト主張ス

「ギブソン」氏ハ其ノ開示セル廣汎ナル政治的の見解ニ從ヒ問題全般ヲ見ンコトヲ「ブリジマン」氏ニ希望シ問題ノ焦點ハ

米國カ提案ノ如キ噸數ノ基礎(即チ一萬噸巡洋艦ノ一定數ヲ建造スルニ要スル噸數ヲ控除シタル後)ニ於テ約十萬噸若クハ其レ以下ヲ英國ノ安全ヲ脅威スルカ如キ方法ヲ以テ巡洋艦建造ノ爲ニ使用スルノ虞アリト英國側ニ於テ思考シオルヤ否ヤニ在リ若シ英國ニシテ此危惧ナキニ於テハ米國カ其ノ適當ト認ムル如ク制限噸數内ニ於テ造艦スルノ權利ヲ爭フノ眞ノ理由何等之レアルコトナシト述ヘ最後ニ「ギブソン」氏ハ其ノ意見ニ依レハ英國側ノ見解ハ起リ得ヘカラサル事態即チ米國カ英國ノ危惧ノ源タル八吋砲巡洋艦ノ建造計畫ヲ採用ストノ杞憂ニ基クモノナル旨ヲ力説シ八吋砲巡洋艦ノ建造カ締約國ノ何レカニ對シ危惧ノ原因タル場合ニ巡洋艦ニ關スル規定ノ再審査ヲ許スカ如キ政治的條項ヲ條約中ニ挿入スルノ可能ナルコトヲ提言ス

其ノ後討議ハ右提言ニ付テ行ハレ各種ノ修正考慮セラレタルカ速ニ全權會合ヲ開キ更ニ本件ヲ審議スルコトニ決定セリ

第六、第六回全權懇談會

時 日 一九二七年七月二十八日(木曜日)午後三時半

場 所 杉村公使宅

出席者

米 國

ギブソン 氏

ダ レ ス 氏

ジョーンズ 少將

英 國

ブリッヂマン 氏

セシル 子爵
パウンド 少將
キャンムベル 氏

日 本

齋 藤 子爵
石 井 子爵
佐 分 利 氏

「ブリッヂマン」氏ハ英國全權ノ倫敦歸還ニ因リ會議ノ延引シタルヲ遺憾トスル旨述ヘタル後英國政府ハ目下ノ形勢ニ付周到ナル考慮ヲ遂ケ其ノ結果トシテ自分及「セシル」卿ハ大體會議休會ノ當時攻究セラレ居リタル案ノ趣旨ニ則リ之ニ多少ノ變更ヲ加ヘテ一九三六年ニ至ル迄ノ條約締結ノ爲努力スヘキ訓令ヲ受ケ歸來セリ英國案ノ變更部分ニ付口頭ヲ以テ説明ヲ加ヘンニ其ノ第一點ハ總噸數ヲ水上艦及潛水艦ニ區分シテ定ムル代リニ各艦種ノ全體ニ付一ノ總噸數ヲ定メントスルニ在リ又艦齡期間中保有スヘキ一萬噸型ニモ第二級型ニモ入ラサル英國艦艇ニ「エメラルド」級二隻ヲ追加セリ此關係ニ於テ英國政府ハ此艦級ニ於ケル英米間砲力ノ差異ヨリ生スル不均衡ヲ調和スルニ必要ナル建造ヲ米國ニ認ムルノ用意アリ次ニ潛水艦ヲ二種ノ型ニ區分ス右ハ當初英國案ニアリシモノヲ更ニ復活セルモノナリ最後ニ一定ノ制限内ニ於ケル各艦種間ニ艦艇ノ入替ヲ行ヒ得ルノ余裕ヲ設ケタリト述フ

「ギブソン」氏ハ八吋砲巡洋艦ノ武裝自由ニ付前回ノ會議ニ於テ述ヘタル米國政府ノ聲明ニ關シ英國政府ハ八吋砲巡洋艦ノ新建造廢止ヲ頑強ニ主張セラルルヤヲ問ヒ

「セシル」子爵ハ右ハ貴問ノ通ニシテ此點一步モ退クヘカラストノ訓令ヲ有セリト説明ス

「ギブソン」氏ハ英國案ハ華府ニ電報スヘキモ英國全權ニ妥協ノ用意ナキ限り合意ニ達スルノ望ナキ旨ヲ述ヘ英國側カ如

何ナル程度迄米國側ト折合ヒ得ヘキヤヲ問ヒ

「ブリッヂマン」氏ハ前顯中間級巡洋艦ノ相對的勢力ヲ均衡ナラシムルカ如キ合意ヲ遂クル以上ニ出ツル權限ナシト答ヘタリ

「ギブソン」氏ハ然ラハ本國政府ニ請訓スルノ外途ナシ本問題カ満足ニ解決セラレサル限り大型巡洋艦隻數ノ問題カ起リ得ヘシトハ思ハスト述ヘ次テ米國側案タル所謂政治的條款ヲ言明シ其ノ修正草案ヲ配布セリ（附錄第二號參照）

「セシル」子爵ハ本約款ハ事態ニ適應セサルヘク本約款ノ規定セサル備砲制限ヲ行フノ必要ナル旨ヲ説キ

「ブリッヂマン」氏ハ本問題ヲ除外セル如何ナル政治約款ニモ應スルコト能ハサル旨附言セリ

「ギブソン」氏ハ米國政府ヲシテ英國ノ態度ヲ明確ニ知ラシムル爲英國側ヨリ精確ナル「ステートメント」ヲ得度シト述ヘ

「セシル」子爵ハ右ハ條約ニ八吋砲ノ制限ヲ規定セサル限り英國政府ハ之ヲ軍備制限條約ニ非スシテ軍備擴張條約ナリト認ムルノ趣旨ナリト答フ

「ギブソン」氏ハ備砲ノ問題ハ直チニ本國政府ニ報告スヘキモ政府カ此點ニ付讓歩スルノ望ハ全然ナキ旨ヲ反覆シ今夜自分ハ米國ノ態度ニ付精確ナル「ステートメント」（附錄第三號參照）ヲ提供スヘク英國全權カ之ヲ倫敦ニ電報セラルレハ兩國政府ハ事態ヲ明瞭ニスルヲ得ヘシト述フ

「ブリッヂマン」氏ハ備砲ノ問題ヲ別ニシテハ米國側ハ英國提案ヲ承諾スル用意アリヤト問ヒ

「ギブソン」氏ハ他ニ難點アルヤモ知レサルモ此等ハ解決不可能ノモノトハ思ハレスト答フ

石井子爵ハ英國全權カ中間級巡洋艦ニ付如何ナル讓歩ヲ爲シ得ルヤ更ニ詳細説明アラムコトヲ求メ

「ブリッヂマン」氏ハ本件ヲ再ヒ説明シ右ハ英米間ノ相對的勢力ヲ均齊ナラシムル目的ニ出ツルモノナルコトヲ指摘シ日本側ハ一九三六年ニ至ル迄ノ條約ニ於テ八吋砲ヲ制限セントスル英國ノ見解ニ同意セラルルヤヲ問ヒ

石井子爵ハ日本ハ一九三六年前ニハ一萬噸級巡洋艦ノ外八吋砲搭載ノ巡洋艦ヲ起工スル意圖ナキモ英國提案ノ趣旨ニ依ル條約ノ規定ヲ以テ決定的ニ束縛セラルルコトニ同意スル能ハスト答ヘタルモ同時ニ英米全權ニ於テ本件ニ關シ何等カ解決法ヲ見出シ得ルニ於テハ日本全權側ハ一般協定ノ障礙トナラサルヘシト答フ

「セシル」子爵ハ他國全權側ニ於テ英國提案ノ公表ニ異議ヲ有セラルルヤト問ヒ

「ギブソン」氏及石井子爵ハ何等異議ナシト答ヘ右文書ハ中間級ニ關シ英國政府カ爲サントスル讓歩ヲ記述セル「ノート」ヲ附シ直ニ公表スルコトニ決定セリ

「ジョーンス」少將ハ私見ニ依レハ英國案ノ公表ハ米國ニ於テ直チニ新聞紙ノ論評ヲ招キ右論評ハ今後ノ討議ヲ困難ナラシムヘシト述フ

「セシル」子爵ハ茲ニ於テ總會ノ問題ヲ提起ス子爵ハ英提案カ公表セラルルコトナリタルヲ以テ速ニ公衆ニ對シ之レヲ詳述スルノ機會ヲ得ル方可ナルヘシト考ヘ總會ヲ三十日ニ開カンコトヲ提議セリ

「ギブソン」氏ハ之ニ贊シタルモ本國政府ノ見解ヲ知ランカ爲メ八月一日迄之ヲ延期センコトヲ希望シ「ブリッヂマン」氏ハ一日迄ノ延期ヲ欣ンテ諾シ石井子爵モ之ヲ承諾シタルニ依リ都合ニ依リ變更スルヤモ妨無シトノ了解ノ下ニ總會ヲ月曜日ニ開クコトヲ公表スルニ決ス

「ブリッヂマン」氏ハ日本全權ニ對シ備砲問題解決セララルニ於テハ他ノ問題ニ付協定ヲ遂クルモ差支ナシト考フルヤヲ問フ

石井子爵ハ日本全權ハ潛水艦問題ニ付本國政府ト通信ヲナスノ要アルヲ答ヘ日本側ハモト潛水艦噸數カ各三國ニ對シ六萬噸ノ基礎ニ於テ解決セララルヘシトノ期待ノ下ニ水上補助艦英米割當總噸數ノ六十五「バーセント」ヲ日本ニ割當ツルコトニ同意セリ日本原案ハ日本ノ要求ヲ七萬噸トシタルモ内一萬噸ヲ水上補助艦噸數ニ移スコトニ同意セリ若シ英國及米國カ今潛水艦九萬噸ヲ要求セハ日本全權側ハ其ノ原案ノ數字タル七萬噸ニ復歸スルコトヲ希望スト述フ

新聞公表文別紙ノ通り決定セリ（附錄第一號參照）

附錄第一號（一九二七年七月二十八日新聞公表文）

三國全權ハ本日午後會合シ英國全權ノ倫敦歸還ニヨリ中止セラレタル討議ヲ續行セリ

「ブリッヂマン」氏ハ左記ノ提案ヲナシタルカ右ハ前回ノ全權會議ニ於テ攻究セラレタル提案ノ趣旨ニ則リ之ニ多少ノ變更ヲ加ヘタルモノナリ

來ル八月一日本會議開催ノコトニ決定セリ

千九百三十六年迄有效ナルヘキ條約ニ規定セラルヘキ巡洋艦驅逐艦及潛水艦ニ關スル前記英國提案

一、代換年齡以內ニ於ケル巡洋艦驅逐艦及潛水艦ノ合計總噸數ハ英米各々五十九萬噸日本三十八萬五千噸

二、更ニ各國ハ第一項所定ノ總噸數ノ二割五分ノ艦齡超過艦船ヲ保有スルコトヲ得

三、代換年齡左ノ如シ

一萬噸巡洋艦十八年其ノ他ノ巡洋艦十六年驅逐艦十六年潛水艦十三年

四、六千噸以上ノ左記艦船ハ之ヲ保有スルコト

英國七、五吋砲「ホーキンス」級四隻

八吋砲「ヨーク」及六吋砲「エメラルド」級二隻

米國六吋砲「オマハ」級十隻

日本八吋砲古鷹級四隻

備考

本案ノ趣意ハ未タ全能率ヲ有スルモ一萬噸八吋級又ハ最大排水量六千噸最大武裝六吋級ノ計畫中ノ巡洋艦ノ中ニ入

ラサル現存艦船ヲ保有セントスルニアリ

英國側ハ本案ニ依レハ米國カ此級ニ屬スル八吋砲艦ヲ有セサルヘキニ鑑ミ米國カ三國海軍委員ノ意見ニ徴シ此種艦

ニ於テ英米同勢力トナルヘキ艦船ヲ建造スルニ同意スルノ用意アリ

五、此ノ他ノ巡洋艦ハ總テ二階級ニ分ツ

イ、一萬噸巡洋艦

ロ、最大排水量六千噸ニシテ六吋ヲ超エサル砲ヲ有スル巡洋艦

六、一萬噸巡洋艦ハ英米各十二隻日本八隻ニ限ルコト

七、嚮導驅逐艦及驅逐艦ノ最大基準排水量ハ各々一千八百五十噸及一千五百噸ニシテ兩者共五吋以上ノ砲ヲ裝備スルヲ

得サルコト

八、驅逐艦級ノ總噸數ハ其全部ヲ千五百噸及其以下ノ艦船ニ充ツルコトヲ得ヘキモ總噸數ノ一割六分以上ヲ嚮導驅逐艦

即チ千五百噸乃至千八百五十噸ノ艦船ニ充ツルコトヲ得サルコト

九、潛水艦ハ二階級ニ區分ス

イ、千噸乃至千八百噸ノモノ

ロ、六百噸以下ノモノ

潛水艦ハ五吋ヲ超ユル砲ヲ裝備スルコトヲ得サルコト

一〇、潛水艦ハ其ノ階級及艦齡ノ如何ニ不拘英米九萬噸日本六萬噸タルヘク此内三分ノ二以上ヲ（イ）級ノ潛水艦ニ充ツルヲ得サルコト

一一、第六第八及第十項ノ制限ヲ除キ割當總噸數ハ各國任意ニ之ヲ利用シ得ルコト

附錄第二號 政治的條款草案

一九三六年十二月三十一日以前ニ於テ締約國ノ一カ他ノ締約國ノ巡洋艦級割當噸數ノ利用方法ハ本艦級總噸數割當ノ調整ヲ必要ナラシムルモノト認ムル場合ニ於テハ右締約國ハ右ノ如キ調整力相互協定ニ依リテ達成シ得ヘキモノナリヤ否ヤヲ確認スル目的ヲ以テ一九三一年一月三十一日以後何時ニテモ六ヶ月ノ豫告ヲ以テ本條約締約國ノ會合ヲ招集スルコトヲ得右會議ニ於テ何等協定ニ達スルコトナキ場合ニ於テハ締約國ハ本條約ヲ終了セシメ度キ意嚮ヲ通告スルヲ得ヘク此通告ハ他ノ締約國カ之ヲ受領シテヨリ一年有效ナルヘシ右ノ場合ニ於テ本條約ハ全締約國ニ關シテ終了スヘキモノトス

附錄第三號

米國側ハ其ノ原提案中巡洋艦總噸數ノ制限内ニ於テ各國ハ其ノ噸數ヲ各自ノ特殊需要ニ最モ良ク適應スル様使用スルノ自由ヲ有スヘキコトヲ明示セリ然レトモ英國側カ艦型ノ制限ヲ重視スルニ鑑ミ米國側ハ眞實ノ制限ヲ構成スヘキ噸數標準ニ付合意成立シ且右噸數制限内ニ於ケル第二種艦型ノ巡洋艦ノ最大單艦排水量ハ八吋砲（華府條約署名國ニ於テ協定シタル口徑）ノ搭載ヲ不可能ナラシムヘキモノタラサルヘキ條件ノ下ニ最大型巡洋艦ノ隻數ヲ討議スルコトニ同意セリ

第七、第七回全權懇談會

時 日 一九二七年八月三日（水曜日）午前十時

場 所

出席者

米 國

ギブソン氏

英 國

ジョーンズ少將

ダレス氏

ブリッジマン氏

セシル子爵

パウンド少將

キヤムベル氏 各全權

日 本

齋藤子爵

石井子爵

佐分利氏

佐藤氏

ウイルソン氏（事務總長）

「ギブソン」氏ハ八月一日日本側カ非公式ニ爲シタル提議（附錄參照）ニ關シ次ノ聲明ヲ爲セリ

「日本側ニ於テ曩ニ試案トシテ大要ヲ述ヘラレタル處ヲ提議セラルルニ於テハ米國政府ハ之ニ慎重ナル考慮ヲ加フヘシ右提議カ承諾セラルヘキヤ否ヤハ提議中ノ若干ノ文句ニ付加ヘラルヘキ解釋ノ如何ニ依テ定マルヘシ若シ既定計畫ナル語カ英帝國ノ場合ニ於テハ協賛濟ナルモ未タ豫算ノ割當ナキ艦艇ヲ含ムトセハ英帝國ノ巡洋艦勢力ハ吾人ノ有スル統計ニ依レハ米國側カ軍備ノ制限ト認メ得ル數字ヲ超ユルコト頗ル大ナリ若シ反之目下建造中ノ艦艇ノ外事實豫算割當濟ノモノノミヲ含ムモノトセハ米國側ノ所見ニ依レハ提案中ノ他ノ事項ト關聯セシメ將來ノ討議ノ基礎トナルヘキ巡洋艦總噸數ヲ得ルコトトナルヘシ」

討議ノ結果日本側ハ「既定」ナル語ノ精確ナル意義ヲ定メント試ミタルコトナク唯日本側ハ眞ノ軍備制限カ失敗ニ了レル

ニ鑑ミ一九三一年迄現存計畫ヲ更ニ増加セシメサルコトスル商議ノ基礎及方法ヲ講スルニ努メタルモノナルコト明カニセラレタリ英國側ハ既定計畫ナル語ハ政府カ承認シ議會ニ附議セラレタル計畫ヲ意味シ換言スレハ右用語ハ英國ノ場合ニ於テハ一九二五年英國下院ニ附議セラレタル五ヶ年建造計畫ヲ指スト解スル旨述ヘタリ右建造計畫ハ英國側カ六月二十三日作成配布シタル聲明中ノWXY各項目ノ下ニ在ル巡洋艦ヲ包含ス右聲明書ハ巡洋艦ノ總噸數ヲ約四十五萬八千噸トシ豫算割當濟ナルモ未タ起工セサル艦艇及協賛濟ナルモ未タ豫算ノ割當ナキ艦艇ヲ包含ス

「バウンド」少將ハ所謂七月二十八日提案（「フイールド」小林兩中將會談ヲ指ス）ハ噸數問題ノ關スル限り受諾シ得ヘク米國カ本件ニ關シ設クル唯一ノ例外ハ備砲口徑問題ナリト解スト述ヘ右ニ對シ「ギブソン」氏ハ本提案ノ數字ノ採用シ得ヘキヲ述ヘタルコトナク唯右數字ハ打克チ難キ障礙ニ非サルコト備砲口徑問題ハ大ナル困難アルカ故ニ他ノ問題解決迄本問題ヲ討議スル必要ナカルヘキコトヲ述ヘタル旨答ヘタリ

次ニ米國側ハ既定計畫ナル語ヲ英國側解釋通トスレハ日本案カ討議ノ基礎トシテ十分ナリトハ認メラレス米國側ハ齋藤子爵ノ發議ヲ深謝スルモ英國ノ解釋通リノ數字トスルトキハ標準高キニ失シ右ノ基礎ニ於テ眞ノ制限トナルヘキ條約ヲ携ヘテ歸國スルコト能ハサルヘシト思考スル旨述ヘタリ

石井子爵ハ英米側ニ於テ日本妥協案ニ對シ何等反對アルニ於テハ日本側ハ勿論之ヲ強制セントスルノ意思ナシト述フ

次テ「ギブソン」氏ハ國務長官ニ宛テタル電報及同長官ノ返電ヲ披露シタルカ其ノ要旨ハ何レモ目下論争ノ目的タル問題ニ付總會ニ於テ公開ノ討議ヲ行ハハ將來ニ於ケル問題解決ノ妨害トナルヘク若シ三國カ共同聲明書ヲ作成シ總會ハ之ヲ採決スルノミニテ終了スルコトトセハ最善ノ策タルヘシト云フニ在リ「ギブソン」氏ハ電報ヲ敷衍シテ輿論痛ク興奮シ現在ノ時ト場所トハ討議ニ必要ナル良好ノ空氣ヲ缺ケリ今後關係國政府カ一層密接ナル接觸ヲ保チテ協議スルニ於テハ何等解決ニ達スルニ至ルヤモ知レサルモ若シ今次公開討議ヲ行ヒ輿論カ凝結スルコトナラハ解決ハ殆ト不可能トナルヘシト述ヘタリ右ニ對シ「ブリッヂマン」氏ハ自分ハ總會ニ於テ英國ノ立場ヲ述フヘキ政府ノ命令ニ接シ居ルカ故ニ之ヲ實行セサ

ルヘカラスサレト自分ハ演說ノ用語ニ注意スヘキカ故ニ何等「ギブソン」氏ノ希望ニ反スルカ如キコトナカルヘク「ギブソン」氏ノ所言ニハ同感ナル旨ヲ答ヘタリ

石井子爵ハ惡感情ヲ防止スヘキ提案ハ子爵ノ歡迎スル處ナルカ故ニ「ギブソン」氏ノ提議モ子爵ニ於テハ採用シ得ヘカリシモノナル旨述ヘタリ

於是總會ニ於テハ各國共演說ヲナシ然ル後三國共同聲明ヲ採用シテ休會トスルニ決シ右聲明案ハ一ノ起草委員會ニテ作成スルコトナレリ

次テ「ブリッヂマン」氏ハ英國側ハ巡洋艦問題ハ解決セラレサルニ因リ其ノ他ノ問題及戰艦ニ關スル提案ノアル點ニ付合意ニ達スルヲ得ハ幸甚ナルヘキ旨述ヘタリ

附 錄

(一) 英國及日本ハ一九三一年十二月三十一日ニ到ル迄代換ノ場合ヲ除キ各其ノ既定計畫中ニ含マレタルモノノ外此上補助艦ヲ起工セサルヘシ右既定計畫ハ次條ノ規定ニ依ルノ外ハ變更セラレサルヘシ

(二) 一萬噸級巡洋艦隻數ハ英米各十二隻、日本八隻ヲ超ユヘカラス

英國ハ既定計畫中殘餘ノ巡洋艦噸數ヲ其ノ適當ト認ムル所ニ從ヒ利用スルノ自由ヲ有ス

小型巡洋艦最大噸數ハ八千噸トス

(三) 米國ハ一九三一年十二月三十一日ニ到ル迄何レノ期間ニ於テモ其ノ補助艦勢力ニ於テ英國ヲ凌駕セサルヘキコトヲ約ス

各締約國ハ一九三一年十二月三十一日迄ニ決定セラルヘキ造艦案又ハ建艦計畫ニ關シ相互ニ情報ヲ交換スヘキコトヲ約ス若シ締約國ノ一カ他ノ締約國ノ採用セル造艦案又ハ建艦計畫ノ結果トシテ本協定ノ調整ヲ要スト認ムルトキハ其ノ調整ヲ

確保スル目的ヲ以テ會議ヲ召集スヘシ

(四) 本會議ニ規定セラレサル補助艦艇ニ關シテノ疑點ハ成ルヘク速ニ而シテ一九三一年ノ初メヨリ遅カラサル時期ニ開カルヘキ會議ニ於テ議定セラレヘシ

第八、第八回全權懇談會

時 日 一九二七年八月四日(木曜日)午前十一時半

出席者

米 國

ギブソン氏

ジョーンズ少將

ダレス氏

英 國

ブリッジマン氏

セシル子爵

バウンド少將

日 本

齋藤子爵

石井子爵

佐分利氏

ウイールソン氏(事務總長)

三國共同聲明案文ハ多少ノ修正ヲ加ヘテ各國全權ノ採用スル處トナリ本日ノ總會ニ於テ發表ニ決ス

「ブリッジマン」氏ハ本國政府ノ訓令ニ基キ最後ノ提案ヲ爲セリ(附錄參照)

「ギブソン」氏ハ第二回總會ニ於テ明示セルカ如ク米國側ハ最モ困難ナル問題ノ解決成ルニ非サレハ各種型ノ艦艇ハ相互ニ關聯スルニモ鑑ミ部分的合意ヲ遂クルモ無益ナルヘシトノ意見ナル旨ヲ述ヘタリ

石井子爵ハ右ノ基礎ニ於テ何等カノ協定ニ達スルコト可能ナルヤモ知レス之カ爲ニハ勿論本件ヲ専門家ニ相談スル必要アルヘキモ米國側ノ態度ニ鑑ミ本件討議ヲ行フモ無益ナルヘシト述ヘタリ

附 錄

英國最後提案

現在小型巡洋艦ニ關シ完全ナル協定ニ達スルノ見込ナシトスルモ若シ本會議カ經費節約ヲ齎ラスヘキ何等ノ國際的協定ヲ締結シ得スシテ解散スルトセハ之レ大ナル不幸ナリ一萬噸巡洋艦、嚮導驅逐艦、驅逐艦及潛水艦ニ關シテハ既ニ大體協定成立セリ英國政府ハ同様ノ協定ヲ主力艦ニ關シテモ容易ニ成立セシメ得ヘシト思惟ス此等ノ結果ハ吾人カ希望セシ全部ニ非ストスルモ尙大ニ價值アルモノニシテ若シ此機會ニ之ヲ協定シ得サレハ國際的不幸事タルヘシ故ニ英國政府ハ本會議カ全然失敗ニ終ルノ曉ニ於テ既ニ三國間ニ暫定的ニ協定ヲ見タル諸點ノミニテモ包含スル協定ニ署名スルノ用意ヲ有スルモノナリ